

## 製品安全データシート

整理番号： MG-HOSPI-3  
作成： 2006/12/13  
改訂： 2011/02/09

製品名： ホスピノーズ

## 1. 製品及び会社情報

製品名： ホスピノーズ

会社名： コニカミノルタエムジー株式会社  
住所： 〒191-8511 東京都日野市さくら町1番地  
担当部門： 品質保証センター  
(TEL：042-589-8421, FAX：042-589-8066)

作成部門： コニカミノルタビジネスエキスパート株式会社 環境部  
(TEL：042-589-8167, FAX：042-589-8071)

緊急連絡先： 急性中毒の恐れがある場合の緊急連絡先  
(財)日本中毒情報センター 中毒110番  
(大阪)072-727-2499(情報料無料) 365日 24時間対応  
(つくば)029-852-9999(情報料無料) 365日 9時～21時対応

推奨用途及び使用上の制限： 病院専用強力消臭剤 (アルミ缶入りエアゾールスプレー)

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類	区分
可燃性/引火性エアゾール	区分2
引火性液体	区分4
急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
皮膚腐食性/刺激性	区分外
眼損傷性/刺激性	区分外
生殖細胞変異原性	区分1B
生殖毒性	区分1A
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分2
水生環境有害性(急性)	区分外
水生環境有害性(慢性)	区分外

### GHSラベル要素

絵表示：



注意喚起語：

危険有害性情報：

危険

可燃性/引火性のエアゾール

可燃性液体

遺伝性疾患のおそれ

生殖能または胎児への悪影響のおそれ

長期又は反復暴露により臓器(肝臓)の障害

長期又は反復暴露による臓器(神経)の障害のおそれ

注意書き：

熱源・着火源から遠ざけること。

粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断/手当てを受けること。

日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。

## 製品安全データシート

整理番号： MG-HOSPI-3

作成： 2006/12/13

改訂： 2011/02/09

製品名： ホスピノーズ

## 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物（エアゾール製品）  
成分及び含有量

成分名称	含有量 wt. %	CAS#	官報公示整理番号		安衛法 通知対象	PRTR法
			化審法	安衛法		
水	70以下	7732-18-5	対象外	対象外	非該当	非該当
ジメチルエーテル	40以下	115-10-6	2-360	化審既存	非該当	非該当
エタノール	5以下	64-17-5	2-202	化審既存	安衛法通 知物質	非該当
両性高分子化合物	1以下	31132-30-6	6-869	化審既存	非該当	非該当

## 4. 応急措置

吸入した場合：	気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合：	気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 水および石鹼でよく洗う。 汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合：	気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 直ちに水で口をすすぎ、コップ1～2杯の水を飲ませる。医師の指示があった場合のみ吐かせる。医師の診察を受ける。意識のない場合は口から何も与えてはならないし、無理に吐かせようとしてはならない。
予想される急性症状及び 遅発性症状：	吸入：咳、咽頭痛、錯乱、し眠、意識喪失。 皮膚：液体触れた場合、凍傷。 眼：発赤、痛み。 短期ばく露の影響：眼、気道を刺激する。この液体が急速に気化すると、凍傷を起こすことがある。中枢神経系に影響を与えることがある。意識が低下することがある。
最も重要な徴候及び症状：	データなし
応急措置をする者の保護：	データなし
医師に対する特別な注意事項：	データなし

## 製品安全データシート

整理番号： MG-HOSPI-3

作成： 2006/12/13

改訂： 2011/02/09

製品名： ホスピノーズ

---

## 5. 火災時の措置

消火剤：	水噴霧、粉末、二酸化炭素、耐アルコール泡
使ってはならない消火剤：	棒状注水。
火災時の特有の危険有害性：	容易に発火するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 破裂した容器が飛翔するおそれがある。 火炎に包まれたボンベは、安全弁から可燃性ガスの放出のおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法：	消火の際は自給式呼吸器具及び完全保護具を着用する。側面から水をかけて容器を冷却する。作業は安全な場所から行う。 漏洩ガス火災の場合、漏えいが安全に停止されない限り消火しないこと。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護（保護具等）：	消火作業の際は、空気呼吸器を含め適切な防護服（耐熱性）を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置：	保護具を着用する（8章参照）。 立ち入り前に換気を行う。 全ての着火源を取り除く。 暴露防止の為、作業の際は適切な保護具を着用する。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 風下を避け、風上に留まる。また、低地から離れる。
環境に対する注意事項：	ガスが拡散するまでその区域を立入禁止とする。 環境への放出を避けること。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 少量の場合は、乾燥土、砂、不燃材料で吸収し、或いは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化の方法、機材：	砂又は他の不燃性吸収剤で吸収し、空容器に回収する。 大量の場合は、盛土で囲って流出を防止し、ポンプで汲みとる。 危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 可能ならば、漏洩している容器を回転（漏出部を上向きに）させ、液体でなく気体が放出するようにする。
二次災害の防止策：	着火源となるものを速やかに取り除く。 火花を発生しない安全な用具を使用する。 容器を冷却して蒸気を抑え、発生した蒸気雲を分散させるため散水を行う。 すべての発生源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 ガスが拡散するまでその場所を隔離する。

---

## 製品安全データシート

整理番号： MG-HOSPI-3

作成： 2006/12/13

改訂： 2011/02/09

製品名： ホスピノーズ

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

技術的対策：	取り扱い後はよく手を洗うこと。 熱源・着火源から遠ざけること。 裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。 加圧容器：使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。 静電気対策を行い、作業衣、作業靴等は、通電性の物を使用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載した設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気：	取り扱いは十分な換気の下で行う。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
注意事項：	情報なし。
安全取扱い注意事項：	粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器は使用後でも穴を開けたり燃やしたりしないこと。 容器は丁寧に取扱い、衝撃を与えたり、転倒させない。 容器の取り付け、取り外しの作業の際は、漏洩させないように、十分注意する。 漏洩すると、発火、爆発する危険性がある。 火気注意。 内容物を故意に吸い込まないこと。 接触、吸入または飲み込まないこと。 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 多量に吸入すると、窒息する危険性がある。 眼や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分に気をつけること。 換気のよい場所で取り扱うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。 取扱後はよく手を洗うこと。

## 保管

適切な保管条件：	施錠して保管すること。 涼しい所/換気の良い場所で保管すること。 日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。 着火源から離して保管すること。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。－禁煙。 酸化剤、酸素、爆発物、ハロゲン、圧縮空気、酸、塩基、食品化学品等から離して保管すること。 容器を密閉して保管すること。 高圧ガス法の規則に従う。 缶が錆びて破裂する原因になることがあり、湿気の多い場所には保管しないこと。 長時間使用しないで置き忘れてたりしないこと。 保管場所には危険物を貯蔵し、または取り扱うために必要な採光、証明及び換気の設定を設ける。
安全な容器包装材料：	消防法、高圧ガス保安法及び国連輸送法規等で規定されている包装材料を使用する。

## 製品安全データシート

整理番号： MG-HOSPI-3

作成： 2006/12/13

改訂： 2011/02/09

製品名： ホスピノーズ

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 防塵仕様の局所排気装置を設置する。  
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、洗顔器と安全シャワーを設置すること。  
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

## 許容濃度

成分名称	安衛法 管理濃度	日本産業衛生学会		ACGIH	
		(ppm)	(mg/m <sup>3</sup> )	TWA	STEL
水	未設定	未設定	未設定	未設定	未設定
ジメチルエーテル	未設定	未設定	未設定	未設定	未設定
エタノール	未設定	未設定	未設定	未設定	1000ppm
両性高分子化合物	未設定	未設定	未設定	未設定	未設定

## 保護具

呼吸器の保護具： 局所排気または自動排気を使用する。  
保護マスクはこれらの排気が不可能な場合使用する。

手の保護具： 不浸透性の手袋（クロロプレンラバー、塩ビ、NBR製）を着用すること。

目の保護具： サイドにシールドの付いた安全眼鏡またはケミカルゴーグルを着用すること。

皮膚及び身体の保護具： 肌への付着を避ける為の適切な服装をすること。

適切な衛生対策： 取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

(\*) 内容液

物理的状態： 液体

形状： 溶液

色： 無色透明

臭い： 微エタノール臭

臭いの閾値： データなし

pH： (\*)6.6-7.6

融点・凝固点： データなし

沸点、初留点と沸騰範囲： データなし

引火点： データなし

自然発火温度： データなし

燃焼又は爆発範囲： データなし

蒸気圧： データなし

蒸気密度： データなし

比重： (\*)0.94

溶解性： (\*)水とは任意の割合で混ざる

n-オクタノール/水分分配係数： データなし

分解温度： データなし

## 製品安全データシート

整理番号： MG-HOSPI-3

作成： 2006/12/13

改訂： 2011/02/09

製品名： ホスピノーズ

---

## 10. 安定性及び反応性

安定性：	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定である。 40℃以上になると破裂のおそれがある。
危険有害反応可能性：	高压ガスが入っている。（常用温度で缶内圧は約0.42MPa） 加熱、衝撃等により、破裂する危険がある。
避けるべき条件：	可燃性の液化ガスであり、空気と爆発性の混合ガスを形成しやすい。 裸火、火花、喫煙。
混触危険物質：	高温多湿な場所での保管及び火気（火炎、スパーク等着火源）の近くでの使用。
危険有害な分解生成物：	水と反応する物質、強酸化剤、強酸等。 爆発性過酸化物（光や空気の影響下）、刺激性のヒューム（燃焼時）

---

## 11. 有害性情報

製品	データなし
成分	
エタノール	
急性毒性（経口）：	LD50: 7060 mg/kg[ラット], LD50: 13000 mg/kg[ラット], LD50: 3450 mg/kg[マウス], LDLo: 1400 mg/kg[ヒト]
急性毒性（吸入）：	LC50: 39 gm/m <sup>3</sup> /4H[マウス]
眼に対する重篤な 損傷性/刺激性：	Moderate [ウサギ]

---

## 12. 環境影響情報

製品	データなし
成分	
ジメチルエーテル	
生態毒性	
急性毒性（魚毒性）：	96hLC50: >4000mg/L(グッピー)
急性毒性（ミジンコ毒性）：	48hEC50: >4000mg/L(オオミジンコ)
残留性/分解性：	難分解性
生体蓄積性：	蓄積性がない又は低いと判断される化学物質(既存化学物質安全点検)
エタノール	
生態毒性	
急性毒性（魚毒性）：	96hLC50: >100mg/L(ファットヘッドミノー)
残留性/分解性：	良分解
両性高分子化合物	
生態毒性	
急性毒性（魚毒性）：	48hLC50: >17500mg/L(ヒメダカ)

---

## 製品安全データシート

整理番号： MG-HOSPI-3

作成： 2006/12/13

改訂： 2011/02/09

製品名： ホスピノーズ

---

### 13. 廃棄上の注意

廃棄方法： 廃棄の前に、ガスを完全に抜くこと。  
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従って分別廃棄すること。  
廃棄物の処理を委託する場合は、処理業者に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。

---

### 14. 輸送上の注意

国連分類： クラス2.1  
国連番号： UN1950  
品名（国連輸送名）： エアゾール類（Aerosols）  
輸送の特定の  
安全対策及び条件： “7章 取扱い及び保管上の注意”の記載による。  
輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。  
重量物を上積みしない。

緊急時応急措置  
指針番号： 126

---

### 15. 適用法令

消防法： 非危険物  
毒劇法： 非該当  
安衛法： 名称等を通知すべき有害物、危険物・可燃性のガス  
化審法： 非該当  
PRTR法： 非該当  
高圧ガス保安法： 適用除外（液化ガス、可燃性ガス）  
船舶安全法： 危険物（高圧ガス）  
航空法： 高圧ガス

---

### 16. その他の情報

参考文献等： 化審法の既存化学物質 安全性点検データ集（化学品検査協会）  
国際化学物質安全性カード 日本語版（化学工業日報社）  
環境化学物質要覧（環境庁環境化学物質研究会）  
新版危険・有害性便覧（中央労働災害防止協会）  
RTECS (U.S DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICE)

免責文： 記載内容は現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。危険有害性の評価は、今後の新しい知見で改訂されることもあります。また、記載事項は当製品についての通常の取扱いを対象にしており、特別な取扱いや組み合わせの場合は用途・用法に適した安全配慮の上お取扱い願います。